



1 目 的

『SDGs』をテーマに、国立中央青少年交流の家の活動プログラムや様々な体験の提供を通して、体験活動の重要性の普及と交流の家の周知を図る。

また、SDGs に取り組む団体の取組情報の発信と交流の機会とし、SDGs の普及啓発を図るとともに、関係団体とのパートナーシップを推進し、地域とともにある施設を体現する機会とする。

2 特別協力

アークラ大サーカス実行委員会

3 後 援

静岡県教育委員会、御殿場市、御殿場市教育委員会

4 協 賛

一般社団法人玉穂報徳会、一般社団法人中畑愛郷会、一般社団法人印野郷土振興協会、コンパスグループジャパン株式会社

5 協力（ブース出展団体）

沼津工業高校機械科、ガールスカウト静岡県第33団、子育て支援団体はぐっと、熱海高校、沼津商業高校、御殿場おもちゃ病院、駿東パタンクラブ、土に還る木森づくりの会、日本DMC株式会社、御殿場市文化協会、華道連盟、茶道和交会所属裏千家美鈴会、御殿場市国際交流協会、ブーブカフェ、御殿場ロータリークラブ、ブックシェアリングごてんば、岳南建設株式会社、御殿場高校創造ビジネス科、御殿場高校・沼津工業高校野球部、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地

6 参加者 1,190名

7 事業内容

(1) 御殿場高校創造ビジネス科木育ひろば

4月より探究学習として受け入れてきた御殿場高校創造ビジネス科の生徒たちが、木育に関するプログラムを企画し実施した。木の目利きや、丸太釣りや丸太渡りなどのオリジナル活動を通して木の魅力を子供たちに伝えた。参加した子供たちからは、「木の香りが心地よく、木について学べて楽しかった」といった感想が寄せられた。生徒たちは、「子供たちが喜んでいる姿を見て、やってよかったと思う」と語っていた。

(2) その他地域団体の体験ブース

大雨の中であつたが、それぞれの団体の特徴的なプログラムが実施され、多くの子供たちが団体のプログラムを楽しんだ。団体からは「自分たちの活動では大勢を集められないので、参加してよかった」という感想をいただいた。

(3) アークラ大サーカスとの同時開催

以前より地域の有志による実行委員会形式で行われている「アークラ大サーカス」（アートとクラフトのイベント）と同時開催した。このイベントにより初めて交流の家に来場することとなり、交流の家の取り組みを知ってもらうことができた。



(4) 富士のさとプレイパーク

雨天により体育館での開催となったが、プレイパーク（冒険あそび場）を交流の家主催で実施した。出張指導で地元の幼稚園等に提供している運動遊びのプログラムを中心に、雨でも楽しめる場を提供した。



8. 企画運営のポイント

- ・交流の家が運営の中心にしている「SDGs」をイベントの中心に置き、協力団体も共に目的を達成できるように企画した。
- ・協力団体がふだんの取り組みを広く知っていただける発表機会となるよう、できるだけ団体の裁量でプログラムを実施できるようにした。
- ・御殿場高校木育ひろばのサポートや、富士のさとプレイパークなど、交流の家が注力している「木育」や「探究」の取り組みを広く知っていただけるようプログラムを実施した。

9. 参加者の声（事後アンケートより抜粋）

- ・天候に恵まれませんでした、娘も楽しく参加しました。
- ・雨の中の開催だったが、充実していた。

10. 成果と課題

(1) アンケート結果

事業全体の満足度			
満足 52%	やや満足 34%	やや不満 14%	不満 0%

(2) 成果と課題

- アークラ大サーカスと同時開催したことによって、会場に楽器の音が響いていたり、人の多さが目に見えるため、お祭りとして盛り上がりが見えた。
- 雨天ではあったが、柔軟な対応で、参加者に対しても効果的なプログラム提供ができた。体育館を開放したことで「子供が楽しめてよかった」と保護者から感謝する言葉が聞かれた。
- 特に高校生の丁寧な接客や子供に寄り添った声掛けなどに、子供たちが喜んでいて、アークラ大サーカス目当てで来た人も、オープンハウスのことを現場で知って、体験して楽しそうだった。
- 想定を超えた様々な対応があり、急遽乗り切った感が否めない。運営体制をしっかり構築し、来られる多くの方々に交流の家として恥ずかしくない姿勢で臨まなければならない。
- 雨天に対して準備された運営とは言えなかった。荒天時にどう判断するかのをシミュレーションをあらかじめしておく必要がある。